

フィンランド政府、特別教授に指名

日本人で初めて招へい

情報理論の研究が評価

北陸先端科学技術大学院大学(石川県能美市)の松本正教授(52)が情報理論の分野での研究が評価され、9月、フィンランド政府から特別招へい教授として日本人で初めて指名を受けた。任期は5年間。北陸先端大教授を兼任しながら、1年の4分の1は同国で研究生活を送り、EUのプロジエクトにも携わる予定だ。

北陸先端科学
技術大学院大学 松本正教授



【八田浩輔】
えている。「常に論文を
読み、国際学会で議論す
る。正しい方向に自分を
導いてくれる刺激がない
とあっという間に脱落し
ます」

松本教授は挑戦的な研究に対して寛容性がない企業の研究開発組織の限界を感じていた。5年前、約22年間務めた大手通信企業の研究所を飛び出し、単身でフィンランドへ。公募でオウル大学教授に転身し、今年春まで務めた。

同国は人口500万人強ながら、携帯電話メーカー最大手ノキアに代表されるように、IT産業を核に高い国際競争力を誇る。一方、韓国などと比べて情報通信分野で国際的な存在感が希薄な日本の現状が寂しく映るようだ。「均一社会の弱点

は、新しいものを作ろうとする時に表れる。日本はもっと多様性を認めるべきでは」と話す。

今回の招へいでは、高いレベルでの研究を経験させるため、日本で指導する学生たちを同行させる。「チャレンジを後押しするのが僕たちの使命だ」と思う。失敗を恐れずしり込みするのが一番良くない」と、学生の費用は自ら負担する。

モットーは「誰もが信じる不可能を、可能に変える研究」。ハイリスク・ハイリターンの人生と自認するが、日々の努力と知的好奇心がそれを支

